

社団法人日本腎臓学会
平成 22 年度総会
議事録

日時：平成 22 年 6 月 16 日(水)12：30～13：30

会場：神戸 ポートピアホール

〒650-0046 神戸市中央区港島中町 6-10-1

- ・社団法人日本腎臓学会理事長・第 53 回学術総会長 榎野博史 挨拶
- ・議事録署名人選出

1. 平成 21 年度事業報告承認の件
 - ・事業・庶務報告
 - ・各委員会報告
2. 平成 21 年度収支決算承認の件
3. 平成 21 年度業務・会計監査報告の件
4. 平成 22 年度事業計画案承認の件
5. 平成 22 年度収支予算案承認の件
6. 名誉会員・功労会員候補者承認の件
7. 新規・更新学術評議員候補者承認の件
8. 評議員候補者承認の件
9. 理事候補者承認の件
10. 監事候補者承認の件
11. 平成 25 年度(第 56 回)学術総会長承認の件
12. 平成 25 年度(第 43 回)東・西部学術大会長承認の件
13. 定款細則施行規定改訂の件
14. その他
 - ・平成 23 年度第 54 回学術総会長 佐々木 成 挨拶
 - ・平成 24 年度第 55 回学術総会長 富田 公夫 挨拶
 - ・名誉会員証授与
 - ・優秀論文賞・ベストサイテーション賞授与
 - ・大島賞授与(受賞講演は総会終了後 13：30～ ポートピアホール)

・理事長・学術総会長挨拶

榎野博史理事長・第 53 回学術総会長から、会員に対し学会への協力および学術総会参加に対し謝辞が述べられ、続いて①ISN-NEXUS が京都で開催され成功裏に終了したこと、②3 月 11 日に東京国際フォーラムにおいて厚生労働省主催による CKD 講演会が行われたほか、国際腎臓デーに合わせて各地で CKD イベントが積極的に開催されていること、③平成 22 年度に厚生労働省科学研究費補助金により、新たに「CKD 進展予防のための特定健診と特定保健指導のあり方に関する研究」「慢性腎臓病(CKD)に関する普及啓発のあり方に関する研究」が認められたこと、などの報告があった。

・総会成立の確認

榎野博史理事長から、現在の正会員数は 8,677 名で、本日の出席者数は 206 名、委任状出席者数が 4,708 名で、合計 4,914 名、56.6 %の出席があり、定足数を満たし総会が成立する確認があった。

・議長並びに議事録署名人の選出

出席正会員により、本総会の議長に榎野博史理事長が互選された。ついで、議事録署名人に議長の榎野博史理事長と総会出席者の佐々木 成理事、富田公夫理事が選任された。

議事 1-1 事業概要並びに庶務報告

守山敏樹幹事長から、平成 21 年度に実施した事業として学術総会・東西部大会、出版関係、腎疾患に関する調査・検討、腎臓病対策についての普及・啓発・後援、国際交流、褒賞および研究業績の顕彰などについて概要の報告があった。

つづいて、平成 22 年 3 月 31 日現在の会員動向が報告された。正会員 8,677 名、名誉会員 53 名の合計 8,730 名、団体会員 29、賛助会員 47 の合計 76 団体である。また、専門科別および都道府県別の会員数、評議員数、学術評議員数の報告があった。

議事 1-2 編集委員会報告

守山敏樹幹事長から編集委員会の報告および今後の課題について説明があった。

- 1) 「日本腎臓学会誌 (JN)」 「Clinical and Experimental Nephrology (CEN)」 の投稿・査読・掲載状況の件 (報告事項)

CEN の平成 21 年度の投稿総数は 212 編と過去最高となった。そのうち海外からの投稿が 105 編と過半数となり、Reject 率も上昇した。

- 2) 優秀論文賞選考結果 (報告事項)

編集委員会において、下記 3 編の優秀論文と 1 編のベストサイテーション賞を選出した。

- (1) CEN Original

著者：加藤滋子ほか (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科病態病理学)

- (2) JN 原著

著者：奥山 宏ほか (金沢医科大学腎機能治療学)

- (3) 症例報告

著者：青木明日香ほか (東京女子医科大学腎センター)

- (4) ベストサイテーション賞

著者：松岡満照ほか (琉球大学医学部附属病院第三内科)

1-3 学会あり方委員会報告

松尾清一委員長から学会あり方委員会の報告および提案があった。

- 1) 新名誉会員候補者推薦の件 (承認事項) 「議事 6」

新名誉会員候補者として、前田憲志功労会員をはじめ 8 名の推薦があり承認された。

- 2) 新功労会員候補者推薦の件 (承認事項) 「議事 6」

新功労会員候補者として、家里憲二会員をはじめ 17 名の推薦があり承認された。

- 3) 更新学術評議員選考の件 (承認事項) 「議事 7」

更新学術評議員候補者として、安藤 稔以下 53 名が推薦され、承認された。

- 4) 新規学術評議員候補者選考の件 (承認事項) 「議事 7」

新規学術評議員候補者として、安西尚彦以下 34 名が推薦され、承認された。

- 5) 評議員候補者推薦の件 (承認事項) 「議事 8」

評議員継続の青柳一正以下 184 名および新規候補者の安藤康宏、岩野正之、浦 信行、要 伸也、佐藤武夫、竹本文美、土谷 健、服部元史、樋口 誠、福田道雄、柳田素子の 11 名、合計 195 名が推薦され、承認された。

- 6) 役員 (理事・監事) 候補者推薦の件 (承認事項) 「議事 9・10」

榎野博史理事長から理事候補者として下記 20 名が推薦され、承認された。

五十嵐隆、井関邦敏、伊藤貞嘉、今井圓裕、今井裕一、大野岩男、香美祥二、木村健二郎、草野英二、高橋公太、富野康日己、中尾俊之、長田道夫、藤田敏郎、堀江重郎、榎野博史、武曾恵理、山本 格、横山 仁、渡辺 毅

また、榎野博史理事長から監事候補者として下記 3 名が推薦され承認された。

山田 明、御手洗哲也、松尾清一

7) 理事長選任ルールについて(報告事項)

松尾清一委員長から、理事長選任ルールを制定し今回の理事長選定から適用することの報告があった。

8) 褒賞規定の改定の件(審議事項)「議事 13」

上田賞の新設およびベストサイテーション賞の内規制定に伴い、日本腎臓学会褒賞規定改定の提案があり承認された。

9) 法人制度改革の件(審議事項)

法人制度改革に伴う「公益社団法人」もしくは「一般社団法人」への移行申請は、内科学会および関連各学会の状況を確認した結果、「公益社団法人」への申請 1 学会(日本循環器学会)以外は「一般社団法人(非営利型)」に移行の予定であり、本学会として諸状況を勘案のうえ「一般社団法人(非営利型)」へ移行することの提案があり、審議の結果、これを承認した。

10) 第 17 回(平成 22 年度)大島賞(日本腎臓財団)選考の件(報告事項)

(1) 野田裕美 東京医科歯科大学 腎臓内科

(2) 深澤洋敬 浜松医科大学 第一内科

11) その他

1-4 専門医制度委員会報告

吉川徳茂委員長から専門医制度委員会の報告および提案があった

1) 平成 22 年第 18 回腎臓専門医試験(合否判定)の件(報告事項)

平成 22 年 2 月 6 日に第 18 回腎臓専門医試験が行われ、受験者 209 名のうち合格者 180 名(合格率 86.1 %), 不合格者 29 名との報告があった。

2) 平成 22 年度腎臓専門医, 指導医, 研修施設の新規認定, 更新の件(報告事項)

平成 22 年度腎臓専門医, 指導医, 研修施設の新規認定, 更新について下記の報告があった。

	新規	更新	総数
腎臓専門医	180 名	400 名	580 名
指導医	54 名	258 名	312 名
研修施設	24 施設	33 施設	57 施設

なお、平成 22 年 4 月 26 日現在の腎臓専門医は 3,326 名、指導医は 1,286 名、研修施設は 494 施設である。

3) 学会が承認する研究会の件(報告事項)

「学会が承認する研究会の認定基準」を満たしている 8 研究会から応募があり、承認した。

(認定期間:平成 22 年 4 月 1 日~平成 27 年 3 月 31 日の 5 年間)

4) 「臨床研修医のための腎臓セミナー」の件(報告事項)

第 11 回臨床研修医のための腎臓セミナーは、平成 22 年 8 月 7・8 日に北海道大学学術交流会館において開催される。

5) その他

1-5 渉外委員会報告

飯野靖彦委員長から渉外委員会の報告があった。

1) コメディカルスタッフ育成委員会の件(報告事項)

平成 22 年 3 月 28 日に開催した「第 1 回腎臓病療養指導のための講習・検討会」は、ほぼ日本全国から 207 名の参加があり成功裏に終了した。

2) 医事委員会の件(報告事項)

平成 22 年度健保収載に向け、「イヌリンクリアランスの技術再評価にともなう加算」、「尿中微量アルブミンの適応疾患拡大」、「慢性腎臓病の医療連携加算」、「扁桃腺摘出後の IgA 腎症に対するメチルプレドニゾロンパルス療法の適応」、「持続的腹膜透析療法実施時の血液透析の併用療法の算定」を関連学会と共同で厚生労働省に要望したが大きな成果を得るに至らなかった。

3) 国際交流委員会の件(報告事項)

(1) Nexus2010 in 京都

平成 22 年 4 月 15-18 日に京都国際会議場において開催され、41 カ国から 966 名の参加があり成功裏に

終了した。

(2) AINF 企画部会関係

平成 22 年度はタイ、インドネシアに講師を派遣する予定である。

(3) 日中韓腎カンファランス

平成 22 年 3 月 13 日にソウルにおいて第 3 回日中韓腎カンファランスが開催され、3 カ国から約 100 名が出席した。第 4 回日中韓腎カンファランスは平成 23 年 3 月 12 日に東京で開催する予定である。

(4) 第 4 回 AFCKDI 2010

平成 22 年 6 月 4 日に APCN のプレカンファランスとしてソウルで開催された。

(5) APCN KENZO OSHIMA AWARD 2010 受賞

堺 秀人功労会員が APCN KENZO OSHIMA AWARD 2010 を受賞した。

(6) KDIGO

①平成 21 年度に CKD-MBD ガイドライン、腎移植レシピエントの診療ガイドラインを発表した。CKD-MBD ガイドラインには深川雅史幹事が参加した。

②Blood Pressure Control in CKD stage 5D に鈴木洋通評議員が参加した。

③Definition, Classification and Prognosis in CKD に松尾清一、今井圓裕両理事、井関邦敏幹事が参加した。

④Blood pressure management in CKD 作業部会に藤田敏郎評議員が参加した。

⑤新委員会である Guideline Implementation Task Force 議長に塚本雄介評議員が選任された。

(7) APCN2014 招致準備委員会

APCN2014 の日本開催が決定した。富野康日己理事を大会長として東京において開催する。

4) ICD-11 専門委員会の件(報告事項)

新たな疾病、傷害及び死因分類(ICD-11)の作成を行っており、第 53 回学術総会の教育講演「腎臓病名の変遷と改革—新たな ICD-11 分類—」で報告する。

5) その他

1-6 企画委員会報告

富田公夫委員長から企画委員会の報告があった。

1) 腎病理診断標準化委員会の件(報告事項)

(1) 本委員会は腎臓病総合レジストリー小委員会と合同で、腎臓病レジストリーの拡充と利用の促進、および関連学会との連携を進めている。登録施設は小委員会委員 24 施設に加え 73 施設が追加され総計 97 施設が参加している。平成 22 年 3 月 31 日現在、これまでの J-RBR と合せて 7,686 例の症例登録が行なわれた。

(2) 腎生検データベース構築病理ワーキンググループ(病理 WG)、IgG4 関連腎症ワーキンググループを設置し検討を行っている。

(3) 第 5 回腎病理夏の学校が平成 21 年 8 月 22 日(土)、23 日(日)の 2 日間、香川大学医学部で開催された。

(4) 腎生検病理診断標準化への指針(2005 年出版)の改訂作業を行っている。

2) 腎移植推進委員会の件(報告事項)

「腎不全の治療選択」用小冊子は平成 18 年度に作成し、その後も改訂版を作成・配布しており、高い評価を受けているため平成 22 年度も作成することとした。

3) 男女共同参画委員会の件(報告事項)

(1) 平成 21 年 2 月 13・14 日、第 10 回臨床研修医のための腎臓セミナーにおいて男女共同参画委員会からスクフォースを出した。

(2) 「腎臓病への誘い」パンフレットを 10,000 部作成し、希望に応じて配布している。

(3) 全学会員を対象にワークライフバランスに関するアンケートを作成、配送した。

4) その他

1-7 広報委員会報告

西澤良記委員長から広報委員会の報告があった。

1) 広報委員会活動報告の件(報告事項)

- (1) 学会ホームページについてトップ画面のレイアウト変更など改善を行った。
- (2) 評議員・学術評議員・一般会員メーリングリストを活用し本年度は 62 件の広報を行った。なお、一般会員のメーリングリストへの登録が少ないため、積極的に登録するよう要請があった。
- (3) 異動等に伴うキーパーソンリストの更新を行い、東西大会や CKD 講演会など地域活動の活性化に活用されている。

2) その他

1-8 総務委員会報告

御手洗哲也委員長から総務委員会の報告があった。

総務委員会では、①外部(学術)団体からの提言等に対する学会としての対応、②学会が刊行している書籍からの転載依頼への対応、③理事長からの諮問事項に関する提言等を行っている。委員会は主にメール会議とし、重要事項について委員会を開催する。

1) 外部(学術)団体からの提言に対する学会としての対応(報告事項)

- (1) 日本医学会あり方委員会委員長の金澤一郎先生から、本学会に対し、アンケート調査協力に対するお礼とともに、日本医学会のあり方については、引き続き日本医学会あり方委員会において検討していく旨の連絡があった。
- (2) 日本専門医制評価・認定機構からは「医療連携モデルを基盤とした総合診療系医と領域別専門医の必要数算定法と専門医制度の検討(研究代表者：渡辺 毅先生)」の厚生労働省科学研究の遂行に際し、腎臓専門医へのアンケート配布の了解を求められ、理事の承認を得てアンケート配布を了承することとした。
- (3) 2009 年 11 月 19 日発行の New England Journal of Medicine に掲載された TREAT 研究で、保存期腎不全患者におけるダルベポエチン使用により脳卒中及び発がんが増加したとの報告を受け、慢性腎臓病対策委員会、脳卒中学会との合同委員会によるアンケート調査についての提案があった。
- (4) 臓器移植関連学会協議会(日本医師会、日本移植学会、日本腎臓学会などの 1 団体、26 学会、6 研究会から構成される協議会)からの「臓器移植法改正後の移植医療の体制整備に関する提言(案)」に対し、日本腎臓学会理事長名でこの提言を承認することを通知した。

2) 学会が刊行している書籍からの転載依頼への対応(報告事項)

日本腎臓学会の刊行物からの転載許可願いを受け、原則改変なしでの転載をお願いしている。

ガイドライン種別	申請件数	許諾件数		否
		改変なし	修正	
CKD 診療ガイド 2007	139	80	58	1
CKD 診療ガイド 2009	89	41	47	1
EBM に基づく CKD 診療ガイドライン	9	5	3	0
CKD 診療ガイド高血圧編	48	36	11	1

3) 理事長からの諮問事項に関する提言(報告事項)

日本内科学会より『内科系関連 14 学会 COI 指針協議会』の案内があった。内科関連 14 学会で学会共通の「臨床研究の利益相反に関する規定」とその細則の雛形が配布され、学会共通のものにする提案があった。日本腎臓学会では「日本腎臓学会利益相反マネジメント指針」と「日本腎臓学会利益相反マネジメント施行細則」が総会で承認され、定款にも記載されているため、内科系関連 14 学会 COI 指針協議会には参加するが、「学会共通の利益相反に関する規定」をそのまま使用することはしないこととした。なお、COI 管理委員会は立ち上げていないが、COI 管理に関する問題は倫理委員会で対応することにした。

4) その他

1-9 倫理委員会報告

御手洗哲也委員長から倫理委員会の報告があった

1) 倫理審査委員会での審査と手順書の改訂(承認事項)「議事 13」

- (1) 日本腎臓学会倫理委員会としての審査を開始した。現在まで3回の倫理委員会を開催し、7件の申請課題を審議した。承認された研究課題は、日本腎臓学会のHPに公表している。
- (2) 臨床研究に関する倫理指針に従って、平成22年3月末日に厚生労働省に対して委員名、委員会規則、倫理審査委員会議事録(要旨のみ)等を報告した。厚生労働省に対する報告も倫理委員会の審査手順書に記載する必要があることから、審査手順書を改訂について提案があり、これを承認した。
- (3) 日本腎臓学会の倫理委員会で承認された臨床研究は、倫理委員会への報告義務がある。来年度から、毎年年度末に、事務局から研究者に「実施報告書」を提出するよう通知することになっており、研究者は倫理委員会宛に「実施報告書」を提出して頂くことになる。

2) 利益相反の管理(報告事項)

「日本腎臓学会利益相反マネージメント指針」と「日本腎臓学会利益相反マネージメント施行細則」に沿って、平成21年度中に理事、幹事、監事、委員会委員長に対し、利益相反自己申告書の提出をお願いした。来年度からの本格的な実施に向け、どのような問題があるかを検討するため、アンケート調査を行った。

なお、学術集会・学会誌での利益相反に関する自己申告は平成22年度(2010年4月)から実施する。

3) その他

1-10 学術委員会報告

佐々木 成委員長から学術委員会の報告があった。

1) エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン英文版作成の件(報告事項)

エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン英文版を作成し、CEN Vol. 13-6に掲載した。また、日本語版はJJN51-8に掲載した。

2) エビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2009改訂委員会委員の件(報告事項)

下記の通りエビデンスに基づくCKD診療ガイドライン2009改訂委員会委員の報告があった。

委員長：木村健二郎、委員：今井裕一、岡田浩一、田村功一、和田隆志、西 慎一

なお、CKD診療ガイドの作成に関して、エビデンスに基づくCKD診療ガイドラインの作成を先行し、CKD診療ガイドとの整合性を図ることとした。

3) 血尿診断ガイドライン改訂委員会への要望の件(報告事項)

学術委員会から血尿診断ガイドライン改訂委員会へ下記の事項を要望した。

- (1) CKD診療ガイドラインとの整合性を図るため、学術委員会から岡田浩一評議員を委員として推薦した。
- (2) 今後、日本腎臓学会の関与するガイドラインは、CKD診療ガイドラインの作成方針を参考にするか、それをのぐ作成方針を立て作成いただくよう期待する。
- (3) 作成に入る前に、ホームページで公開するなど完成後の公表方法とその責任の所在を決めておくことが必要である。
- (4) 作成費用の負担、出版する場合は著作権と販売収入の扱いを検討する。

4) その他

1-11 慢性腎臓病対策委員会報告

渡辺 毅委員長から慢性腎臓病対策委員会の報告があった。

「臨床研究推進委員会」

1) 疫学研究小委員会(報告事項)

- (1) 腎移植ドナー GFR プロジェクトとしてデータを収集し、総計136例の症例を得た。
- (2) イヌリンクリアランス簡易法と標準法との比較を行う臨床研究を行い、112例のデータを解析した。簡易法は標準法より若干低めになることを明らかにし、論文化を行った。
- (3) 米国の新しいGFR推算式(CKD-EPI式)に関し、日本人の係数を算出した。係数補正CKD-EPI式の正確度などについて論文を作成した。
- (4) eGFRの普及度のアンケート調査の調査項目についての検討を行った。

- (5) 人間ドック学会関連施設での eGFR の普及度、CKD の頻度の調査などを行うため、共同研究についての申し入れを行った。

2) 戦略研究小委員会(報告事項)

- (1) 平成 22 年度から研究代表者が日本腎臓財団より「筑波大学・山縣邦弘」に変更した。
- (2) 平成 21 年度は引き続き介入研究を継続している。介入 A 群、介入 B 群ともに CKD 診療ガイドに沿った CKD 診療を継続していただき、CRC が 6 カ月毎にかかりつけ医を訪問しデータ収集を行っている。
- (3) 研究計画にある CKD の啓発活動を目的に、各地区医師会単位で CKD 講演会を開催した。また参加かかりつけ医、腎臓専門医、幹事施設、管理栄養士が集い研究の進捗状況や問題を検討する「地域連携ミーティング」を地区医師会毎に年 1 回開催した。
- (4) 平成 22 年 3 月 7 日に全国合同 FROM-J 地域連携会議および FROM-J 地域連携報告会を開催し、現在の進捗状況が研究グループ側から報告され、参加医師会からは地域連携の取り組みについて発表がなされた。

3) 進行性腎障害小委員会(報告事項)

- (1) 平成 22 年 1 月 31 日に、学術総合センターツ橋記念講堂において、班会議報告会を開催した。
- (2) 平成 21 年度調査研究のまとめとして、「厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業進行性腎障害調査研究」報告書を作成し全国に配布した。
- (3) 平成 21 年度研究の成果として、以下のものがあげられる。
 - ①平成 21 年度に引き続き、対象 4 疾患につきアンケート調査を行い、新規受療者数の推計を行った。その結果、平成 20 年度調査とほぼ概数は一致した。
 - ②腎疾患総合レジストリーも順調に推移し、平成 19 年から平成 21 年末までの間に 5703 例の腎生検例がウェブ登録された。
 - ③各疾患分科会で診療指針の作成に向けた取り組みが開始された。今年度末までにはエキスパートオピニオンも取り入れて完成させる予定である。
 - ④ウェブを利用した 2 次研究が企画され、一部が開始された。
 - ⑤平成 22 年度も研究事業が採択され、全体計画の 3 年目として継続されることになった。
- (4) 第 53 回日本腎臓学会学術総会において研究成果を発表する。

4) 検尿の効果検証小委員会(報告事項)

下記の 3 グループに分かれ活動を行っている。また、厚生労働省科学研究費の渡辺班、秋澤班とも連携し検討を進める予定である。

- (1) 検尿と血清 Cr 値の意義検証・要因サブ解析グループ
- (2) 臨床研究・調査実施グループ
- (3) 政策提言作成グループ

5) 臨床研究推進委員会(報告事項)

- (1) 腎臓病総合レジストリーで行うべき研究について、平成 21 年度は持ち回り審議にて 2 件を承認した。これまでに 6 件の腎臓病総合レジストリーを使用した臨床研究の申請があり、本年度申請の 2 件を加えて 5 件が承認された。

6) 腎臓病総合レジストリー小委員会(報告事項)

- (1) 腎臓病総合レジストリーの拡充を行った。
- (2) 二次研究におけるアップロードファイルの形式と登録を実施した。
- (3) 日本透析医学会、日本小児腎臓病学会、日本移植学会との連携協議を行った。
- (4) 日本透析医学会、厚生労働省進行性腎障害調査研究班とともに腎臓病総合レジストリー利用の手引き(2009 年 5 月 1 日版)3,000 部を作成した。それぞれの学会の教育および教育関連施設 1,025 施設に送付し、腎臓学会総会、東部部会・西部部会において各 300 部を配布した

7) その他

「学際的展開委員会」

1) 日本慢性腎臓病対策協議会

平成 21 年度活動報告につづき平成 22 年度日本慢性腎臓病対策協議会活動計画の概要が報告された。

- (1) 社会に対する CKD 啓発活動を行う。特に日本医師会、日本糖尿病対策推進会議、行政と連携し、各地方における CKD 対策を推進する。
- (2) ホームページを拡充し、広く一般に向けた CKD 活動を推進する。
- (3) マスコミ関係者に働きかけ、CKD に関連した報道を推進する。

なお、事業の拡大に伴い平成 22 年度は、日本腎臓学会に 500 万円(企業寄付 300 万円を含む)の助成願いがあり検討の結果、これを承認した。なお、平成 23 年度以降については平成 22 年度の活動状況を勘案し決めることとした。

2) 糖尿病性腎症合同委員会

平成 21 年 12 月 6 日に第 30 回糖尿病性腎症合同委員会が開催され、次回は平成 22 年 6 月に開催を予定している。

3) 日本糖尿病対策推進会議

本年度より当会議が改組され、日本医師会、日本糖尿病学会、日本糖尿病協会、日本歯科医師会が幹事団体となり、本学会は協力団体として参加し糖尿病性腎症の対策に取り組んでいる。

4) 薬剤師との合同委員会

薬剤師との CKD 対策委員会設置に向け、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本医療薬学会、日本腎と薬剤研究会に参加を呼び掛け、参加の回答があった。

5) その他

1-12 学術総会企画委員会

松尾清一委員長から学術総会企画委員会の報告があった。

1) 第 54 回学術総会プログラム委員長・実務委員長の件(報告事項)

第 54 回学術総会プログラム委員長は富田公夫前理事、実務委員長は佐々木成前理事とした。

2) その他

議事 2 財務委員会報告

細谷龍男委員長から財務委員会の報告があった。

1) 平成 21 年度収支決算の件(承認事項)

- (1) 平成 21 年度事業活動収支は、収入額 421,502,437 円に対し、支出額は 355,742,422 円であり、差し引き 65,760,015 円の黒字であった。これは、会員の増加、学術総会・学術大会参加者の増加、総会長・大会長からの納付金、印税などによる収入の増加と、支出を極力抑えた結果である。なお、事業の拡大とともに年間の予算額も増加しているが、今後は寄付金収入の減少が見込まれるため、将来を見据えた安定した学会運営を図る必要があるとの説明があった

議事 3 平成 20 年度業務・会計監査

斉藤喬雄監事から、平成 22 年 4 月 20 日に監査を行い「業務および会計とも適正である」旨の報告があった。

以上の説明について、榎野博史理事長から平成 21 年度業務および収支決算について意見を求めたが異論がなく、満場一致で承認された。

議事 4 平成 22 年度事業計画案の件(承認事項)

守山敏樹幹事長から平成 22 年度事業計画の提案があり、審議の結果承認された。

議事 5 平成 22 年度収支予算案の件(承認事項)

細谷龍男委員長から平成 22 年度収支予算の提案があった。

- 1) 事業活動収入では、①会費収入は前年度実績を勘案し 420 名増としたこと、②腎臓病療養指導のための講習検討会会費収入として 100 万円を計上したこと、③寄付金収入として中外製薬などからの寄付金として 1,000 万円、末期腎不全治療用小冊子分として 1,100 万円を見込んだこと、④奨学助成金収入として、引き続きバクスター社の寄付による 300 万円を計上した。

- 2) 事業活動支出では、①学術集会支出として第 53 回総会、第 40 回東・西部大会予算として計 20,400 万円を計上したこと、②和文誌予算 4,650 万円、英文誌予算 1,937 万円、梱包運搬発送費に 1,138 万円を計上したこと、③腎臓病療養指導のための講習検討会費用として 200 万円を計上したこと、④末期腎不全治療用小冊子分として 1,200 万円を計上したこと、⑤租税公課を印税収入の増加に伴い 1,450 万円に増額したこと、⑤アジア太平洋腎臓学会招致準備金として 200 万円計上した。

以上の提案について審議の結果、特に異論もなく全会一致で承認された。

議事 11 第 56 回学術総会長選任の件(承認事項)

平成 25 年度第 56 回学術総会長として富野康日己理事(順天堂大学・内科)の推薦があり、満場一致で承認された。

議事 12 平成 25 年度第 43 回東・西部学術大会会長候補者推薦の件(承認事項)

平成 25 年度第 43 回東部学術大会会長として木村健二郎理事(聖マリアンナ医大・内科)、および西部学術大会会長として横山雅好学術評議員(徳島大学・泌尿器科)が、それぞれと東西部大会幹事会から推薦され、満場一致で承認された。

10 第 54 回、第 55 回学術総会の件(報告事項)

- 1) 佐々木 成第 54 回学術総会長から挨拶および準備状況の報告があった。
- 2) 富田公夫第 55 回学術総会長から挨拶があった。

11 閉会の辞

榎野博史理事長から、会議進行への謝辞が述べられ閉会した。

以上

引き続き、下記の表彰式を行った。

・名誉会員証授与

榎野博史理事長から、前田憲志、重松秀一、浅野 泰、猿田享男、二瓶 宏、堺 秀人、清野佳紀、杉崎徹三の 8 名の功労会員に名誉会員証が授与された。

・優秀論文賞授与

榎野博史理事長から、加藤滋子、奥山 宏、青木明日香の 3 氏に優秀論文賞、松岡満照氏にベストサイテーション賞が授与された。

・大島賞授与

榎野博史理事長から、野田裕美、深澤洋敬両氏に大島賞が授与された。

総会配布資料

1. 平成 21 年度事業報告書
2. 事業・庶務報告(訃報・会員数)
3. 日本腎臓学会誌の論文投稿・査読状況一覧表
4. 投稿規定改正案
5. 第 13 回(2007 年)優秀論文・第 1 回ベストサイテーション賞受賞論文
6. 学会あり方委員会報告
7. 名誉会員・功労会員候補者
8. 新規学術評議員・更新学術評議員候補者
9. 評議員候補者
10. 理事候補者
11. 監事候補者
12. 17 回(平成 22 年度)大島賞(日本腎臓財団)受賞者
13. 学術総会企画委員会報告
14. 平成 22 年度腎臓専門医試験合格者、平成 20 年度新規指導医/研修施設、平成 2 年度更新腎臓専門医/指導医/研修施設一覧
15. 渉外委員会報告

16. 企画委員会報告
17. 広報委員会報告
18. 総務委員会報告
19. 倫理委員会報告
20. 学術委員会報告
21. 慢性腎臓病対策委員会報告
22. 平成 21 年度収支計算書・正味財産増減計算書・財産目録・貸借対照表, 会費納入状況
23. 会計監査報告書・監査報告書
24. 平成 22 年度事業計画書(案)
25. 平成 22 年度収支予算書(案)

平成 22 年 6 月 16 日

社団法人 日本腎臓学会

議事録署名人

議長 榎野 博 史 ⑩

署名人 佐々木 成 ⑩

署名人 富田 公 夫 ⑩